

令和元年度 第2回古賀市地域公共交通会議

【議事録】

I 日時

令和元年 11 月 15 日（金）
15 時～16 時

II 場所

古賀市役所中会議室

III 次第

- 1 (1)古賀市の地域公共交通をとりまく現状
(2)古賀市における地域公共交通の課題
(3)まちづくりにおける地域公共交通の役割
- 2 古賀市における地域公共交通の基本方針(案)
- 3 その他

IV 出席者(敬称略)

- | | |
|--|------------|
| <input type="checkbox"/> 古賀市 総務部長 | 吉村 博文 |
| <input type="checkbox"/> 古賀市 建設課長 | 橘 勇治 |
| <input type="checkbox"/> 西日本鉄道株式会社 営業第二課 課長 | 宮本 寛之 |
| <input type="checkbox"/> 花鶴タクシー有限会社 代表取締役 | 保井 享 |
| <input type="checkbox"/> 株式会社古賀タクシー 代表取締役 | 後藤 正典 |
| <input type="checkbox"/> 一般社団法人福岡県バス協会 専務理事 | 中川原 達也 |
| <input type="checkbox"/> 一般社団法人福岡市タクシー協会 事務局長 | 森川 直行 |
| <input type="checkbox"/> 公募市民 | 河村 正彦 |
| <input type="checkbox"/> 公募市民 | 久池井 良人 |
| <input type="checkbox"/> 公募市民 | 安武 洋子 |
| <input type="checkbox"/> 九州運輸局福岡運輸支局 支局長 | 坂本 正弘 (代理) |
| <input type="checkbox"/> 西日本鉄道労働組合 自動車対策部長 | 山本 義美 欠席 |
| <input type="checkbox"/> 九州産業大学 理工学部 准教授 | 稲永 健太郎 |
| <input type="checkbox"/> 大分大学 経済学部 教授 | 大井 尚司 |
| <input type="checkbox"/> 九州旅客鉄道株式会社 福工大前駅 駅長 | 金光 高広 |
| <input type="checkbox"/> 社会福祉法人古賀市社会福祉協議会 事務局 次長 | 檜山 信夫 |

V 議事録

1 開会

- ・ 稲永会長より、開会の挨拶が行われた。
- ・ 事務局より配布資料の確認が行われた。

2 資料説明

- ・ 事務局より資料の説明が行われた。

(1) 古賀市の地域公共交通をとりまく現状

- ・ 質疑はなく、次の議題に移行した。

(2) 古賀市における地域公共交通の課題

副会長

- ・ 「古賀市における地域公共交通の課題」は、おおよそ作業部会を踏まえて作成されたものと考えられる。
- ・ p3 「2-1 移動ニーズへの対応の観点からみた地域公共交通の課題」の「(3) JR 各駅へのアクセスの維持・確保」について、古賀市のマスタープランの中では駅を中心としたまちづくりを進めるということが記載されており、駅の機能は非常に大切であると考えられる。千鳥駅は古賀駅に次ぐ乗降者数があり多くの利用者に使われているということだが、周辺の開発が遅れており、西鉄バス、自家用車、送迎などでのアクセスが非常に不便な状況にある。一挙に解決はできないことは承知しているが、改善を検討していただきたい。
- ・ (3)の文面について、「今後も多様な交通モードで駅にアクセスできる環境を維持していく必要がある。」と記載しているが、「維持」していただくだけでなく「改善」が必要であることを記載すべきではないか。古賀駅とししぶ駅は一定程度改善されている状況にあるが、千鳥駅については「維持」という書きぶりを改めて記載するようにお願いしたい。

事務局

- ・ 副会長のご指摘はごもつともだと考えられる。
- ・ 表現は現状をしっかりと反映したものに改めていきたい。

河村委員

- ・ 理解不足かもしれないが、議論の中で基幹となる交通機関は JR が中心と言っており、JR は輸送量も多いことから、それが重要なのは理解できる。しかしながら、西鉄バスの赤間・天神等はわれわれも利用しているが、10 分に 1 本の運行頻度で便利で需要もあり、単なる地域の中の移動だけではなく大動脈となる重要な路線であるというのに、JR の問題ばかりが議論されていて路線バスの議論がない気がする。西鉄バスの役割が過小評価されていないか。

副会長

- ・ 作業部会でもお伝えしたが、広域路線バスの利用は結構ある上に便利である。

- ・通勤等で JR を利用してきたが退職された方で、定期ではなく通常の利用で天神地区に行く際に、便利で早い赤間急行線を利用している方がいる。古賀市内の移動にも使えるため古賀の東西間の交通網の維持として、路線バスも大事に議論したほうがよい。重要性の認識が不足しているのではないか。
- ・JR は大量輸送できるというメリットがあり、南北移動の大動脈と考えている。

事務局

- ・ここでは課題の洗い出しということで考えている。JR 鹿児島本線や西鉄バスの国道 3 号幹線、国道 495 号幹線等はかなり便数を運行していただいている、利用されている方も多い。
- ・しかしながら、現在はそれを「課題」として認識しているわけではないため、「課題の整理」ということでは触れていない。次の基本方針案の検討にあたっては触れているため、そこで議論いただきたい。
- ・古賀市としては、JR、西鉄バスといった幹線を基軸とした話を将来的には固めていかなければならないと考えており、おっしゃるようなことは認識としては持っている。

会長

- ・「2-2 持続可能性の確保の観点からみた地域公共交通の課題」について、先日 9 月に市主催でスタートアップフォーラムを開催した。それを踏まえ、公共交通を維持していくことを市民の皆様が自分事として、積極的に関わっていただく意識を広めていただくことも大事だと思う。
- ・調査結果としての課題だけでなく、これまでに公共交通に関するイベントをやってきた意味も踏まえ、市民の意識啓発も課題として考えていきたいが、いかがか。

大井委員

- ・先日、「年に 1 回でいいので、一人一往復でもバスを利用してほしい。大分県で 120 万人、それだけで 3 億 6 千万収入が増える」という話をした。それすらやっていただけないのが大多数である。車の利便性と同じサービスを求められると、公共交通では対応できない。それに近いのはタクシーだが、人口分のタクシーを用意することは非現実的である。単発的にイベントをやるのもいいが、いつもイベントをやっているわけにはいかない。イベントはその瞬間だけがいいが、効果は長続きしないものである。
- ・将来に必要なということ、きめ細かい入り方をして地域の方々にやってもらわないと方法はないのかと思う。外部の人間が何か言っている場合ではない。それができる土壌があるのかを古賀市民の方々に伺いたい。
- ・車と比べれば不便であることをご理解いただいた上、不便さを享受していただくしか方法がない。利用する人がいないため、本数を増やせるわけでない。
- ・難しい問題ではあるが「明日路線がなくなったときにどうするのか」ということの議論をしてほしい。

会長

- ・課題をみんなで考えていくという意識は、市が先導して市民とみんなで広めていただきたい。「公共交通の問題を一緒に考えていきましょう」「将来を考えていきましょう」ということをやっていく話を課題として位置付けていきたい。

- ・これはデータから読みとめることとは別の次元になるが、調査結果の一部になるのか添える形になるのか、文言なり課題として挙げるのはいかがか。

副会長

- ・前回の作業部会の際、「これまでのイベント等の利用促進の取り組みが利用に結びついた実感はなかったとは言え、将来的にも『利用促進することが効果的でない』と断じることはない」という話をした。公共交通を年に1回くらいは利用することが可能だと思われるが、それすらできないのは意識の問題である。一挙に改善ということは難しいが少しずつ丹念に取り組んでいけば効果が得られるのではないか。
- ・古賀市では市民が市内線のバスに乗らないと言われているが、バス停があまり認識されていないのではないか。たとえば市役所が発行する地図にバス停が載っていない。マップにバス停が載っていれば、使わなくても意識はする。意識はしているその末に利用するようになる。「こがすきマップ」はなかなかいい取り組みだと思ったが、バスについては「お問い合わせください」という問合せ先のみしか掲載されておらず残念に感じた。バス停に行こうという人はいないかもしれないが、バス停の表示があれば意識はしてもらえるはずである。何かの時に「あのバス停から乗ろうか」と意識してもらえるのではないか。
- ・広報は効果がないという意見があるが、まずはそういった意識を醸成し、耕すことを十分に考えるべきだと考える。課題の中に取り入れていただきたい。

会長

- ・市が発行する広報の中にもどういった交通アクセスの仕方があるか、「車で何分」という話で留まるのではなく、積極的に案内をすべきというご意見であった。様々な交通手段があることを示さないと、「ない」という認識になってしまう。地域の持続可能性の観点でもいただいた意見について検討していきたい。
- ・市民、市役所、関係する皆さんの中で公共交通を考え、少しでもいいから使うようにしてもらおう土壌づくりをしてほしい。

(3)まちづくりにおける地域公共交通の役割

坂本委員(代理)

- ・都市計画マスタープランは令和元年に改訂予定ということだが、ここに記載されている内容は既存の計画の内容か。

事務局

- ・記載してあるものは現在の計画の内容である。改訂版は今ある計画から大きく形を変えるものではなく、基本的には現在の計画の形であり、都市づくりの理念などに変更はないが、今後は改訂後の内容を反映していきたい。
- ・もうしばらくすると改訂案がパブコメにかけられ、市民の皆様を示される予定のため、そちらもご覧いただきたい。
- ・改訂の「訂」の字が「定」に誤っているため、修正願いたい。

2 古賀市における地域公共交通の基本方針(案)

宮本委員

- ・「基本方針Ⅳ 公共交通の持続可能性の向上に向けた取組の推進」について、赤間急行福岡線や 26A など、西鉄バス広域路線は古賀市の他の都市を結ぶ路線になっており、一つの都市で利用促進を行っても効果は限定的である。他市との連携の視点では検討できないか。

事務局

- ・他地域との連携について、周辺の宗像市、新宮町、福津市とも何らかの形で連携していくことを何らかの形で計画に盛り込むことを検討していきたい。

会長

- ・近隣市町も利用者の減少などの問題は同様の状況であると考えられるため、横のつながりに期待するところである。ぜひ他都市との連携を検討いただきたい。

宮本委員

- ・新宮町などでは地域のバスが隣の行政区域に入る手前で折り返すようなルートとなっているようだが、地域住民の移動は地域内で完結するものではなく、そのような実態を踏まえて広域的なコミュニティバスを運行できないだろうか。コミュニティバスを走るにも地域を分ける必要はないものと考えており、そのほうが効率的ではないか。
- ・とくに、新宮町は同じような都市のつくりで隣同士なのであるから連携しやすいと考える。検討できないだろうか。

河村委員

- ・異なる自治体同士では予算なども違うのに、連携などできるものだろうか。

保井委員

- ・財源が異なる以上、他都市との連携は難しいのでは。ミニバスの運行を行った際、地域境界を越えて運行する了解を得るに苦労したことがある。若宮市では福津市のイオンまでバスを運行しているが、基本的に地域境界をまたがないのが普通ではないか。

会長

- ・他地域と連携によるバスの運行は事例としてもあり、現実的に可能性はゼロではない。選択肢として検討する価値がある。

坂本委員(代理)

- ・他地域との連携を検討する上では、古賀市の中だけで協議するのではなく、連携を図る地域と正式に協議した上で検討していく必要がある。例えば久山町は篠栗町と関係する交通事業者も巻き込んで協議し、地域境界を跨いで篠栗町まで行けるバスを運行している。地域間で互いに協議すれば全くできないということではない。

副会長

- ・交通事業者へのヒアリング結果について、古賀タクシーへのヒアリング結果に「新宮町のコミュニティバスが車庫に戻る際に市内を通っている」という記載があったが、その点について詳しく伺いたい。

後藤委員

- ・新宮町のコミュニティバス(運行:協和タクシー(株)マリンクス事業部)の車庫が西鉄新宮駅の方と小竹の方とにあり、車庫に戻る際に小竹から新宮中央に抜けるルートがある。時間によって小竹を抜けて回送しているということである。

副会長

- ・市内とは言え、市の中心部でなく小竹という限定された地域のみを通過しているということになるのか。

後藤委員

- ・その認識で間違いない。小竹を通過している回送車を活用する事例が成功すれば、他にも展開できるのではないかな。

副会長

- ・今運行しているものの見方を少し変えれば、見直すきっかけになる。

大井委員

- ・他地域との連携は今後の流れになる。そうでないとそもそもお金がつかなくなる。地域境界を越えたから路線を切らないといけないというわけではない。もしかすると、今後は広域で事業を展開していくステップが通常になっていくのではないかなという気がする。
- ・計画は5年で期限となり、また作成する必要がある。その時には横串を刺さないと議論自体が成立しなくなると思う。
- ・大分県は県が主導で圏域ごとに計画づくりや事業展開を進めている。できないことはない。

会長

- ・他地域との連携は実績があり、現実的に可能であるということを確認できた。市としてそういう方向性を見定めた計画を作るのも、ある程度意味があることであると考えられる。
- ・別の業界であるが、水道事業団のように地域の垣根を越えて連携している事例も現実にあるため、そのような連携の考え方を視野に入れて公共交通の考え方を出していければと考える。

安武委員

- ・新宮町・古賀市・福津市・宗像市の「しこふむ 4 地域」の連携があったが、今もそういったつながりは残っているのか。

事務局

- ・新宮町・古賀市・福津市・宗像市の 4 地域の連携について、全般的なことに関しての連携は色々やっている。
- ・その中でも新宮町とはよく話す機会あり、例えば小竹はししぶ駅よりも新宮中央駅のほうが近いといった現実があり、実態に即した移動に対応することは行政の責務としてもあるのではないかと考えたことは担当者レベルでは協議している。
- ・他地域との連携を計画に載せるには、相手の地域としっかりと協議する必要があり、一度協議したいと考えている。その上でどう計画に記載するのかといったことを考えていきたい。

会長

- ・ぜひ協議いただく方向でお願いしたい。

吉村委員

- ・古賀市的には限られた予算である中、できること、できないことがあり、使える資源は有効活用していく必要がある。
- ・市内には工業団地があり多くの企業が立地しているが、たくさんの従業員を送迎車を出して工業団地まで運んでいる実態がある。そういった送迎でまかなっている移動を、なにかしら公共交通に結び付けられないかといった話題が市民フォーラムの中であった。企業連携についても検討できないか。

保井委員

- ・企業連携を図る上で考えられる問題は料金をどうするかということと、営業免許の話だけである。なかなか難しいだろうが、協議していく価値はある。

会長

- ・企業と連携するというのも一つの案として考えられる。実際どうやるかは超えるべき課題があるだろうが、検討をやめるのはもったいないため、選択肢としては持っていてほしい。可能性を拾っていくのが大事であると考えているが、そういった方向性でよいだろうか。

宮本委員

- ・高齢者の方の操作ミスによる運転事故が発生している社会情勢から、高齢者に免許返納を勧める流れがあるが、古賀市としては免許返納者への手当てをどのように考えているのか。
- ・我々もこれまで様々な地域で路線の編成をしてきたが、これまでマイカーを使っており、今までバスを使ったこともないような人から「免許を返納するから、今からでもいいから路線を通してほしい」といった要望を受けることがあり、悩んでいる。
- ・4、5 年が計画の期限であるということだが、どのように考えているのか。

事務局

- ・免許返納そのものに対するインセンティブというより、世の中から危険を排除するという意図で交通系 IC カードを配るなど何らかの策をとっているところは結構ある。
- ・古賀市では免許返納の自主返納者に対する支援策は実施していないが、「70 歳おでかけバス

事業」を独自で実施しており、免許返納に関わらず 70歳以上の年齢を対象としている。そういう意味で免許返納に対するインセンティブではないが、そういう施策をやっている。

- ・問題は使えるバスがあるかといえば、十分にお応えできていないというのが実情である。

会長

- ・免許を返納したかどうかは切り離れた考えで、70歳以上というふうに支援しているのか。

事務局

- ・何らかの特典を用意するにも、免許の期限が切れたことを理由に返納する人も多く、自主的に返納した人との差が出てしまうということもある。そのため免許返納に関わらず一定の年齢を対象に事業を実施している状況である。

3 その他

事務局

- ・次回以降について、作業部会を2回、全体会議を1回予定している。
- ・日時は未定のため、後日改めて連絡したい。

会長

- ・次回の会議では、今回の協議内容をもう少し詰めるような内容になるのか。

事務局

- ・左様である。資料のp6に【施策案】と記載されている内容について、それが基本方針にぶら下がる形になるが、今回はそれを具体的に協議していきたいと考えている。

会長

- ・施策案はまだこれから検討を深めるということである。